

# 堤防高根拠は

県が大谷  
で説明会  
住民の疑問に答える

気仙沼市本吉町の大  
谷地区で31日夜、海岸  
シヨンの説明会が開か  
れた。大谷南と大谷東



津波シミュレーションの説明

の振興会の求めに  
じ、県河川課の担当者  
が明治三陸級の津波の  
浸水予測図などを示し  
ながら説明に当たっ  
た。

新たな堤防は、明治  
三陸級の津波に備えて  
整備される計画が示さ  
れている。しかし、大  
谷地区の堤防高（海拔  
9・8㍎）は実際の明  
治三陸津波の痕跡より  
高く、東日本大震災級  
の津波の減災効果も小  
さいことから、住民が  
高さに疑問を抱いてい  
る。

レーションは、震災で  
地盤沈下した後の地盤  
高で行っており、新た  
な堤防がなければ、実  
際の明治三陸津波より  
も浸水予測範囲は拡大  
する結果となった。国  
道45号やJR気仙沼線  
も浸水するため、「地  
域が孤立してしまう。  
ある程度の津波に対  
する堤防は必要」と理  
解を求めた。

住民は、国道をかさ  
上げて堤防とすること  
を提案したが、県は  
「堤防と道路は構造が  
違う。それにリアス式  
海岸は海岸に山が迫っ  
ていて、かさ上げた  
道路との間にくぼ地が  
できてしまい、くぼ地  
を埋め立てないと沿道  
の土地を利用できなく  
なる」などと問題点を  
説明した。